

本を読むこと

別に図書館の回し者ではない。かといって、全く関係ないわけでもない。音楽の先生としては珍しく『学校図書司書』の資格を持っている（何の役に立っているのかは聞いてはいけません）。これは教職に就いてから、大学の夏期講座で取得した。若い大学生たちと一緒に机を並べた。40代だったから、大学生がとにかくまぶしかったなあ……。

図書司書といっても、本をたくさん読んでいることが資格を取れる条件でもないのだから、そんなにたくさん本を読んでいるわけではない。ファンタジー系が好きで、上橋菜穂子の『鹿の王』とか『狐笛のかなた』、『守り人』シリーズも大好きだ。時代物のフィクションやある程度史実に基づいたフィクションも興味深い。血がたくさん出るようなのはちょっと苦手、映像でもないのに気持ち悪くなってしまい、その場面は超スピードで読み飛ばすか、放棄しちゃおう。エッセイとかほんわり、じんわりあたたかくなるような、そんな小説が好きかな。自己啓発本はほぼ読まないし、評論もあまり読まない。かなり偏っているなあと思うけど、しょうがない。本の装丁にも左右される。ついついきれいな装丁の本を手にとってしまうなあ……。

で、本を読むこと。最近は映像環境がかなり気軽になってきたので、映像を見る機会は数年前に比べると格段に増えたが、朝の読書などで本を手に取り読み始めると、活字に引き込まれる。映像だと説明がましくなるからディテールの説明はない。万人にわかりやすいように置き換えられている可能性だってある。でも活字はディテールが事細かに書いてある。作者もわからないことは徹底的に取材をし活字にしているから、例えば全く知らない職種のこととか、料理とか、歴史的なこととか、活字から情報を得ることは多い。映画化やドラマ化される小説に関して、よく「原作を読んでから映像をみないと～」なんて聞くけど、私はそこまで思わない。映像は、作り手側のOne Stepが介在しているから、自分が感じるのとは違う色を見せてくれる気がするからだ。あとから原作を読んで、その違いを楽しめたり、共感したり、映像で腑に落ちなかったことが判明したり、新たな発見もある。それもまた面白い。ちょっとこここのところ、映像見すぎてるかなあ。本もいいなあ。本、読もう！！

土曜日・日曜日、不要不急の外出は控えましょう。

【週行事予定】

月	日	曜	行事予定	FT	課外	備考
2	18	金	学年末考査	×	×	7:25 登校
	19	土	土曜講座 A			8:20 着席
	20	日	英検2次Ⅲ			
	21	月		○	○	7:25 登校
	22	火	3年共通テスト後特編終了	○	○	7:25 登校
	23	水	天皇誕生日			
	24	木		○	○	7:25 登校
	25	金		×	○	8:20 着席
	26	土	共通テスト早期模試(2年)			
	27	日				
3	28	月	同窓会入会式 13:10- 卒業式準備・予行	×	○	7:25 登校
	1	火	第74回卒業式 9:30-	×	×	8:20 着席
	2	水	⑤限終了	×	○	7:25 登校
	3	木	奉仕活動(14HR)	○	○	7:25 登校

※朝課外のある日は7時25分校門通過、朝課外のない日は8時15分校門通過を厳守しましょう